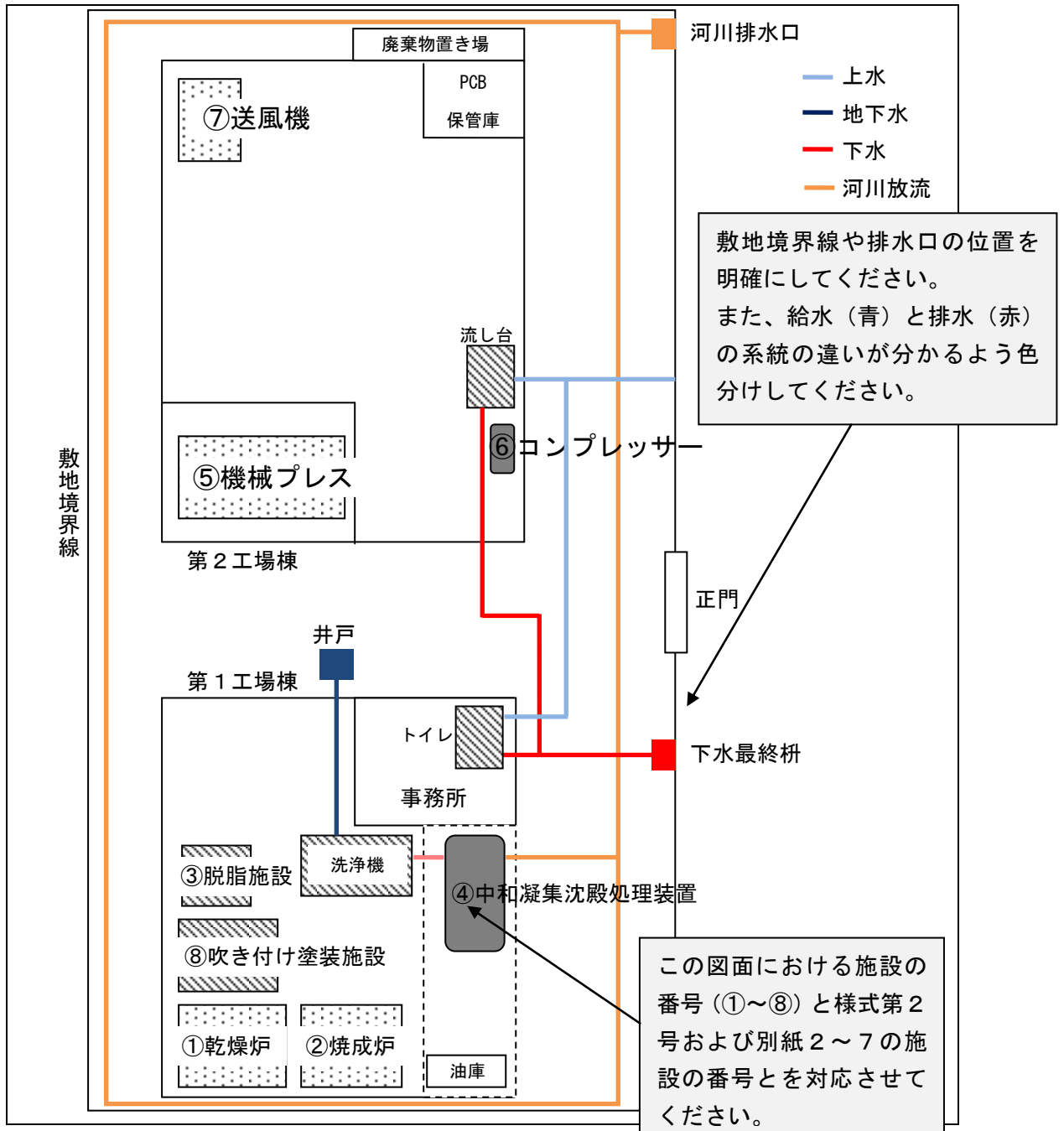


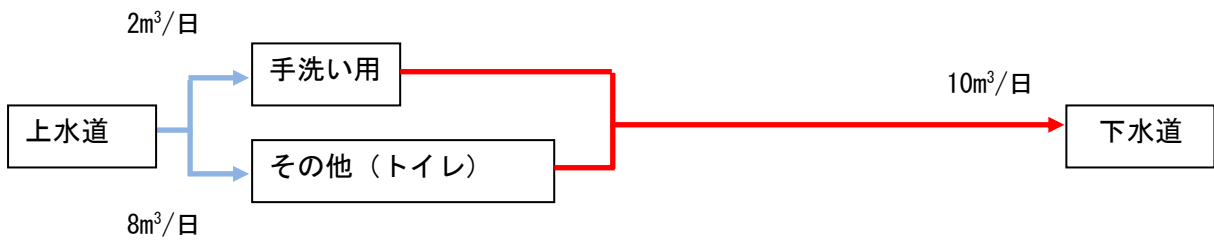
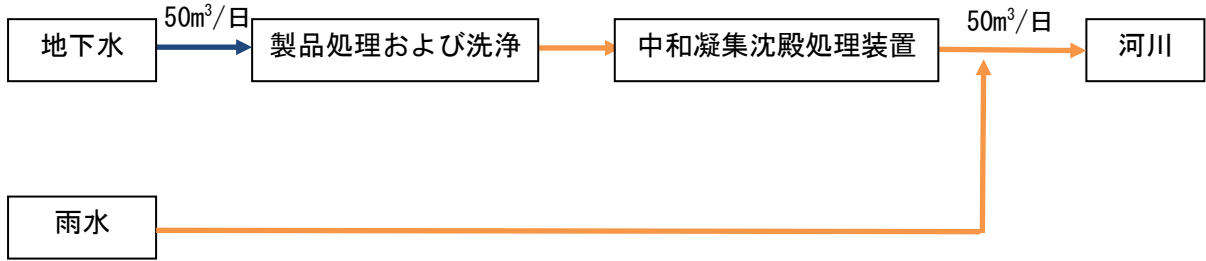
(別紙1)

付近の状況、敷地内における建物、施設、緑地の配置および給排水の系統図



- 備考
- 1 建物の用途および施設の番号を記入すること。
 - 2 給排水系統については、給水(青)と排水(赤)の色分けをすること。
 - 3 他に適当な図面があればそれによることできる。

<給排水の系統図>



別紙2-1を記入した場合、この様式についてもご記入ください。

(別紙2-2)

ばい煙発生施設の使用の方法

特定工場等における施設の番号		①			②		
使用状況	1日の使用時間 および 月使用日数等	9時～17時			9時～17時		
	季節変動	なし			なし		
原材料 (ばい煙 の発生に 影響のある ものに限る。)	種類	第2種石油類			第2種石油類		
	使用割合	〇〇g/分			〇〇g/分		
	原材料中の成分割合 (%)	いおう分 鉛分 0.01ppm カドミウム分 0.01ppm	その他		いおう分 0 鉛分 0.01ppm カドミウム分 0.01ppm	その他	
	1日の使用量	〇〇kg/日			〇〇kg/日		
燃料 または 電力	種類	都市ガス13A			A重油		
	燃料中の成分割合 (%)	灰分 0%	いおう分 0%	窒素分 0%	灰分 0.6%以下	いおう分 1.1%以下	窒素分 0.15%以下
	発熱量	11,000kcal/Nm ³			10,800kcal/Nm ³		
	通常の使用量 (t/h)	12Nm ³ /h			20000L/h		
	混焼割合	専焼			専焼		
排出ガス量 (Nm ³ /h)		最大 20	通常 20		最大 3000	通常 2400	
排出ガス温度 (°C)		180			460		
排出ガス中の酸素濃度 (%)		5			7.5		
ばい煙 の濃度	ばいじん (g/Nm ³)	最大 0	通常 0		最大 0.012	通常 0.012	
	いおう酸化物	最大 0	通常 0		最大 23	通常 23	
	窒素酸化物	最大 60以下	通常 60以下		最大 43	通常 43	
		ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度をご記入ください。 また、ばい煙施設がある場合は、処理後の濃度としてください。					
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最大 0	通常 0		最大 0.05	通常 0.05	
参考事項							

- 備考 1. 原材料中の成分割合(%)の欄および燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあつたては、重量比%または容量比%の別を明らかにすること。
2. ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
3. ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
4. ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設については、参考事項の欄に一行程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載すること。

別紙2-1を記入した場合、この様式についてもご記入ください。

(別紙2-3)

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の特定工場等における施設の番号				
処理に係るばい煙を発生する施設の特定工場等に置ける施設の番号				
ばい煙処理施設の種類、名称、形式				
工事着手（予定）年月日		年 月 日	年 月 日	
工事開始（予定）年月日		年 月 日	年 月 日	
処理能力	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最大		
		通常		
	排出ガス温度 (°C)	処理前		
		処理後		
	ばい煙の濃度	ばいじん (g/Nm ³)	処理前	
			処理後	
		いおう酸化物 (容量比 ppm)	処理前	
			処理後	
		窒素酸化物 (容量比 ppm)	処理前	
			処理後	
	ばい煙量 (Nm ³ /h)	最大	処理前	
			処理後	
		通常	処理前	
			処理後	
捕集効率				
使用状況	1日の使用時間および 月使用日数等	時～時 時間/回 回/日 日/月	時～時 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動			
排出口の実高さ H ₀ (m)				
補正された排出口の高さ H _e (m)				
排出速度 (m/s)				
排出口から敷地境界までの最短水平距離 (m)				
捕集物質の処理方法				

処理施設を設置している場合のみ
ご記入ください。

補正された排出口の高さH_eは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定してください。

- 備考
1. ばい煙の濃度は乾きガス中の濃度とすること。
 2. 補正された排出口の高さH_eは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
 3. ばい煙発生施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

粉じんを発生する施設がある場合、この様式をご記入ください。

(別紙3)

粉じんを発生する施設の構造等

該当なし

特定工場等における施設の番号					
種類・名称・形式		該当施設がない場合は、このように記載してください。 なお、該当施設がない場合でも別紙1～8は もれなく添付してください。			
工事着手(予定)年月日				年	月
使用開始(予定)年月日				年	月
規 模	堆積場の面積 (m ²) および堆積能力 (t)				
	コンベアのベルト幅 (cm) またはバケット内容量 (m ³)				
	コンベア単基の長さ (m) × 基数				
	粉粒塊輸送用コンベアの輸送能力 (t/h)				
	原動機の定格出力 (kw)				
	処理能力 (t/h)				
堆積物の種類、性状および通常の年間延べ堆積量 (t/h)					
運搬物の種類、性状および通常の月間運搬量 (t/月)					
処理対象物の種類および通常の月間処理量 (t/月)					
粉 じ ん の 処 理 方 法	内部に粉じん発生施設を設置している建築物の概要				
	集 じん 機	集じん機の種類および形式			
		集じん機の効率 (%)			
		送風機の原動機の出力 (kw)			
	散 水	装置の種類・形式			
		装置の能力 (m ³ /h)			
		散水の方法			
	防じんカバーの設置状況				
その他の方法					

- 備考 1. 堆積物の種類、性状および通常の年間延べ堆積量の欄は、比重、粒度、水分値の概数および通常の年間延べ堆積量について記載すること。
2. 粉じんを発生する施設および粉じん処理施設の構造概略図を添付すること。
3. 散水の方法の欄には、散水量 (L/t)、実施頻度等を記載すること。
4. その他の方法の欄には、薬剤散布、締固め等の方法およびこれらの実施の量、実施頻度等を記載すること。

汚水を発生する施設がある場合、この様式をご記入ください。

(別紙4-1)

汚水を排出する施設の構造等

特定工場等における施設の番号		③							
名称・形式		脱脂施設							
能力・規模		200L							
構造および主要寸法 (m)		L×W×H =1.1×0.4×0.6							
工事着手 (予定) 年月日		平成〇〇年 〇〇月〇〇日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
使用開始 (予定) 年月日		平成△△年 △△月△△日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
使用状況	使用時間および使用回数	〇時～〇時 〇回/日	時～時 回/日	時～時 回/日	時～時 回/日	時～時 回/日	時～時 回/日	時～時 回/日	時～時 回/日
	季節変動	なし							
原材料の種類 および使用量 (1日当たり)		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 季節変動がなければ「なし」、あれば多い時期や止める時期をわかりやすくご記入ください。 </div>							
施設ごとの排水量 (m ³ /日)		原液0.5L (業者回収)							
項目		変動		通常	最大	通常	最大	通常	最大
		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
水	pH	7.5	8.0						
	COD (mg/L)	60	90						
	BOD (mg/L)	50	65						
	SS (mg/L)	20	30						
質									

備考 1. 施設の操業系統図を添付すること。

2. 汚水発生施設の構造および主要寸法については、詳細な図面を添付してその概要を明記すること。

汚水処理施設がある場合、この様式をご記入ください。

汚水の処理方法

汚水処理施設の番号		④							
汚水処理施設の名称・型式		中和凝集沈殿処理装置							
能力 (m ³ /日)		150							
構造および主要寸法 (m)		別添のとおり							
工事着手 (予定) 年月日		平成〇〇年〇〇月〇〇日							
使用開始 (予定) 年月日		平成△△年△△月△△日							
稼働時間および稼働回数		〇時～〇時							
使用薬品名および 使用量 (1日あたり)		PAC 5.6kg 苛性ソーダ 0.6kg ベントナイト 0.3kg				汚水等を処理する時に使用する全ての薬品の名称および一日あたりの使用量をご記入ください。			
処理効果		処理前		処理後		処理前		処理後	
項目		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
汚水量 (m ³ /日)									
水	p H								
	C O D								
	B O D								
	S S								
質									
残 さ	種類	汚水等の処理によって生じる残さ(汚泥等)をご記入ください。							
	生成量 (t/日)								
	処理方法								
排水口 変動									
項目		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
排水量 (m ³ /日)		30	50						
工場 排水 量・ 水質	p H	2.0~ 10.0	7.0~ 8.0						
	C O D	200	<20						
	B O D	200	<20						
	S S	300	<5						

備考 1. 汚水の処理系統図を添付すること。
 2. 汚水処理施設の構造および主要寸法については、詳細な図面を添付してその概要を明記すること。

騒音を発生すると考えられる施設がある場合、この様式を記入してください。施設状況を正確に把握するため、騒音の原因になりそうなものは、できるだけご記入ください。

(別紙5)

騒音を発生する施設の構造等

特定工場等における施設の番号		⑤	⑥	⑦	
名 称 ・ 型 式		機械プレス DEF-100	コンプレッサー GH-2000	送風機 IJ-300	
能 力		400t	7.5kw	10kw	
工事着手(予定)年月日		平成〇年〇月〇日	平成・・・	・・・	
使用開始(予定)年月日		平成△年・・・	平成・・・	・・・	
使用 の 方 法	1日の使用時間 および使用回数	〇時～〇時 時/回 回/日 〇〇日/月	時～時 時/回 回/日 日/月	時～時 時/回 回/日 日/月	時～時 時/回 回/日 日/月
	季節変動	なし			

騒音の防止方法 ←

防止方法をわかりやすくご記入ください。

A L C 1 0 0mmの壁材の建屋内で、住居側から離れた場所に設置。
 機械プレスについては、さらに防音室内に設置。
 コンプレッサーは低騒音型を使用。
 送風機は、吸込みダクトに吸音材を設置。

備考 「騒音防止方法」の欄は、遮音塀等騒音の防止に関して講じようとする措置の概要を記入するとともに、できる限り図面、表等を利用すること。

振動が発生すると考えられる施設がある場合、この様式を記入してください。施設状況を正確に把握するため、振動の原因になりそうなものは、できるだけご記入ください。

(別紙6)

振動が発生する施設の構造等

特定工場等における施設の番号		⑤	⑥	⑦	
名 称 ・ 型 式		機械プレス DEF-100	コンプレッサー GH-2000	送風機 IJ-300	
能 力		400t	7.5kw	10kw	
工事着手(予定)年月日		平成〇年〇月〇日	平成・・・	・・・	
使用開始(予定)年月日		平成△年・・・	平成・・・	・・・	
使用の方法	1日の使用時間 および使用回数	〇時～〇時 時/回 回/日 〇〇日/月	時～時 時/回 回/日 日/月	時～時 時/回 回/日 日/月	時～時 時/回 回/日 日/月
	季節変動	なし			

振動の防止方法 ←

防止方法をわかりやすくご記入ください。

機械プレス・送風機は、床との取り付け台に防振ゴムを設置。
コンプレッサーは低振動型を使用。

備考 振動の防止方法の欄は、つり基礎等振動の防止に関して講じようとする措置の概要を記入するとともに、できる限り図面、表等を利用すること。

悪臭を発生する施設がある場合、この様式をご記入ください。

(別紙7)

悪臭を発生する施設の構造等

特定工場等における施設の番号	⑧		
種類・名称・型式	吹き付け塗装施設		
能力・規模	・・・		
工事着手（予定）年月日	平成〇年〇月〇日		
使用開始（予定）年月日	平成△年・・・		
悪臭の防止対策	発生源対策	塗料について、臭気の少ないもの（ノルゲン・ノキシル）に順次変更している。 脱臭方式については、直接燃焼法により燃焼温度約 800℃で酸化分解する方法と、白金触媒を使った触媒酸化法の両方を採用している。	
	建物対策	塗装ブース（乾式）を設置している。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 防止対策について、できるだけ詳しくご記入ください。 </div>
	その他の対策	脱臭機の月に1回のメンテナンスを実施している。	

備考 悪臭の防止方法の欄には、発生源における脱臭装置の設置、悪臭の漏れない建物の構造とする等悪臭の防止に関して講じようとする措置の概要を記入すること。

産業廃棄物が出る場合、この様式をご記入ください。

産業廃棄物の種類および処理方法

廃棄物の種類		廃油	汚泥	
生成の過程および含有物の名称・成分等		脱脂施設から出るキシレン	凝集沈殿により生じる脱水ケーキ	
生成物（1月当たり）		〇〇L	△△m ³	
処理方法	自家処理	処理施設の名称・型式・能力		
		処理後の残さ	量（1月当たり）	
			処理方法	
	処理方法の概要		別添のとおり	別添のとおり
	委託または売却処理	受託者または買取者の氏名（名称）・住所	・・・	・・・
		受託者または買取者の処理方法	・・	・・
その他の処理				
処理方法の割合		自家処理 % 委託または売却処理 100% その他の処理 %		
無害化・安全対策				

産業廃棄物の種類については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第二条の規定による区分によること。

備考 1. 産業廃棄物の種類については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第2条第4項第1号の規定による区分によること。
 2. 処理方法の概要については、図面等を添付してその概要を明記すること。